

589. リーマン面ノ型ニ就イテ

小林善一 (東京高師)

§ 1. W -平面上ニ定義サレタ単一連結無限葉ノリーマン面 F ヲ考ヘル。面ノ型問題ハ多クノ方々ニヨツテ研究サレテ居リマスガ $L. Ahlfors$ ノ方法ニ基礎ヲ置クモノハ先ヅ W_0 ヲ面上ノ原点トシテ定メ、面ニ適當ナ *metric*ヲ導入シテ F カラ部分面分 F_ρ ヲ切り取ル。 F_ρ ハ W_0 ヲ含ミ、 $\rho' < \rho$ ナラバ $F_{\rho'}$ ハ F_ρ ヲ含ミ且ツ $\rho \rightarrow \infty$ ニ對シテ $F_\rho \rightarrow F$ ナルモノトスル。 F ガ拋物的ナルタメノ十餘條件ハ積分

$$\int_0^\infty \frac{d\rho}{L(\rho)}$$

ノ発散ヲ書カレル。

茲ニ $L(\rho)$ ハ F_ρ ノ境界曲線ヲ上ノ *metric*ヲ測ツタ全長ヲアル。一般ニ F_ρ ノ含ム領域ノ数ハ一個ヲハナイ。証明ニ本質的ナノハ W_0 ヲ含ム領域ノ W_0 ヲ F ノ境界点カラ含ツ連結的ナル境界曲線 $\Gamma(\rho)$ ヲ測ツテアルカラ此ノ $\Gamma(\rho)$ ノ長ヲ以ツテ上ノ被積分項 $L(\rho) =$ 替ヘルコトガ出來ル。

對數分岐点ニ對シテハ有效ヲナイマウマスガ、代數分岐点ニ對シテハ、ズット條件ガヨクナル様デス。以下ニツノ例ヲ以テ上ノ效果ヲ調べ見マス。

§2. 面 F の解析函数 $z = z(w) = \text{ヨツテ}$ 單葉円板 $|z| < R$ = 描寫サレル。但シ $R \leq \infty$. $z = 0$ の w_0 = 對應サセル。

準備トシテ使フ記号定義ヲ述ベマス。

(g)-disc: F の單葉円板ヲ同上ニ少クトモ二個ノ特異点アルモノ。

(g)-Vector: (g)-disc ノ有限特異点カラ周ニ立テヌ法線、中心迄。

線状ノ網 T : (g)-disc ノ球面中心ノ軌跡、前ニ位相樹木ト呼ンガモノ。

角距離: 對應スル (g)-Vectors ノ廻轉角ノ絶對値又ハソノ和。

Cylindrical surface Y : (g)-disc ノ中心ノ軌跡ト二個ヨリ多イ特異点ノ (g)-disc ノ (g)-Vectors ノ全体ヲ面 F ヲ分割シテ出來ル面分ヲ

$$y = \log(w-b) + (m-\alpha)i$$

$$\text{又ハ } y = \log(w-b) + (m+\alpha)i$$

テ y -平面ニ描寫シ、ソノレラノ境界ヲ F = 従ツテ貼リ合セテ出來ル連結的ナ面。 b = 有限分岐点。 m = 原点カラノ最小角距離。 α = 面分ノ角巾。

サテ w_0 ヲ有限点トシ、之ノノツテ居ル (g)-Vector ヲ角距離ノ原線トスル。 y_0 ヲ w_0 ノ Y 上ノ像トスル。

$$y_0 = \log |w_0 - b_0|.$$

Υ は $\triangle BAC$ の辺 BA , AC 上に切れる。但し

$$A = z_0 + i\theta$$

$$B = z_0 - \theta \quad \text{及び} \quad C = z_0 + \theta.$$

$\triangle ABC$ 内 = アル Υ の部分の中 z_0 を含み ϵ の $Q(\theta)$, $Q(\theta)$ の中 $z > \theta$ と z_0 を分つ境界曲線 $\Gamma(\theta)$ の長さを $L(\theta)$ とす。

定理 I. 積分 $\int \frac{d\theta}{L(\theta)}$ が発散スレバ F は拋物的

である。

証明. $L(\theta)$ の定義から

$$2\pi \leq \int_{\Gamma} \left| \frac{d \log z}{dz} \right| |dz|$$

Schwarz の不等式を用ひて

$$4\pi^2 \leq \int_{\Gamma} |dz| \int_{\Gamma} \left| \frac{d \log z}{dz} \right|^2 |dz|$$

$$\int_{\theta_0}^{\theta} \frac{d\theta}{L(\theta)} \leq K_1 \int_{\theta_0}^{\theta} d\theta \int_{\Gamma} \left| \frac{d \log z}{dz} \right|^2 |dz|$$

$$\leq K_2 (\log R - \log R_0)$$

但し K_1, K_2 は定数, R_0 は $\triangle BAC$ 上ノスベテノ $z =$ 對應スル $|z|$ ノ最小値, F が双曲的ナラバ右辺ハ有限ナル。

§3. Cylindrical surface Υ 上ノ F ノーツノ

有限代数分岐点 b , 近傍 δ (角巾 $2n\pi$). $I(y) \geq 0$ \Rightarrow 實軸に平行ナル巾 $n\pi$ ノ帯ニ描寫サレル。像ハ筒狀ヲナシ右方ノ境界線ヲ傳ハツテ γ ノ他ノ部分ニツナガル。ソレ故 θ ガ十分大キクナルト BAC 上ノ此ノ筒ノ切口ハ開テ, $\Gamma(\theta) =$ ハ屬シナイ。

又 $b = \infty$ ノトキハ之レニ屬スル (g) -Vector ハナイ。然レソノ n 葉近傍ニハ高々 $(n+1)\pi$ ノ筒狀部分ニ描寫サレル。

$b = \infty$ ガ分岐点ガナイトキハ $n = 1$ トシテ上ノコトガ云ヘテ居ル。兩者トモ θ ガ十分大キクレバ此ノ筒ノ $\triangle BAC =$ スル切口ハ $\Gamma(\theta) =$ 無關係デアル。

一般ニツノ (g) -Vector \vec{bd} ノ描寫ハ BAC トニツノ交点ヲモツ b ガ代数分岐点デアレバ θ ガ十分大キクレバニツ共 $\Gamma(\theta) =$ 關係ガナクナル。($d = \infty$ デ d ガ對数分岐点デアレバ右側ノ一ツノ交点ハ $d =$ 附屬サレテ左ダケ考ヘレバヨイ)。

b ノスベテノ (g) -Vectors ガ $\Gamma(\theta) =$ 關係ガナクナル θ ガ考ヘラレル。此ノトキ b ハ θ デ無効ト呼ビテ。

$\mu_1(t)$ ヲ對数分岐点, $I(y) = t =$ 横ハル (g) -Vector 描寫ノ數 ($w = \infty$ ガ對数分岐点ノトキ w 數ヘ入レル) トシ. $\mu_2(\theta, t)$ ヲ θ デ有效ナル代数分岐点ノ $I(y) = t =$ 横ハル (g) -Vector ノ數トスル。

$$L(\theta) \leq 2\sqrt{2} \int_0^\theta (\mu_1(t) + \mu_2(\theta, t)) dt$$

定理 II. 積余 $\int_{\theta_0}^\infty \frac{dt}{\int_0^\theta (\mu_1(t) + \mu_2(\theta, t)) dt}$

が発散スレバ F ハ 拋物的デアアル。

線状ノ網 Γ = 於テ $\mu_1(t)$ ハ 原点 t_0 カラ 角距離 t = アル 對數範圍ノ 境界点ノ 數 (之ノ 境スル 對數範圍 = 從ツテ 數ヘク) $\mu_2(\theta, t)$ ハ θ デ 有效ナル 代數範圍ノ t 。カラ t = アル 境界点ノ 數デアアル。從ツテ 積余ハ 夫々 = 對應スル 境界弧 即チ 網ノ 線ノ 長サ = ナル。

§ 4. 代數分岐点ノ 有效區間ト 存在區間トノ 差ガ 有限デアレバ、上ノ 定理ハ 網ガ ケ = 着目シテ 云ヒ 換ヘラレル。例ヘバ、有限個ノ w ノ 上 = ノ ミ 分岐点ガ アルトキヲ 考ヘル。

$$a_\nu = e^{\frac{2(\nu-1)\pi i}{n}} \quad (\nu = 1, 2, \dots, n)$$

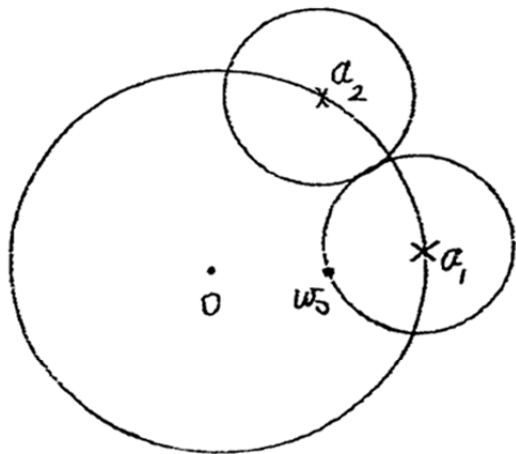
吾々ノ 線状網ハ *Elfvig* ノ 線状複体ト 一致スル。何トナレバ 上ノ 議論ハ 正則点ヲ 假リノ 特異点トシテ 數ヘ入レルコトハ 差支ヘナイカラ。

$|w| < 1$ ノ 一ツヲ *Original (q)-disc* D_0 トスル。面 F ヲ

$$|w - a_\nu| = \sin \frac{\pi}{n}, \quad \nu = 1, 2, \dots, n$$

ヲ 切レルト

1. $|w| > 1$; $|w - a_\nu| > \delta \sin \frac{\pi}{n}$, $\nu = 1, 2, \dots, n$
 の上 = 單葉面分, 系列ヲ得ル。此ノ任意, Γ 上ノ描寫ハ



$$R(z) > \log \left(\delta \sin \frac{\pi}{n} \right)$$

$$(k-1)\pi < I(z) < (k+1)\pi$$

= 收マレ。此ノ円板 $|w| > 1$, D_0 カラノ角距離ガ $k\pi$ トスル。

何若 a_ν カラ $|w| = 1$ = 立テ
 又垂線ハ何レモ $k\pi$ ノ角距離

= アルカラデアアル。 $\theta \geq (k+1)\pi$ ナ此ノ領域ハ無効 = ナル。
 ($\theta_0 = \log \left(\delta \sin \frac{\pi}{n} \right)$ トスル)

$$2. |w| < 1, |w - a_\nu| > \delta \sin \frac{\pi}{n}, \quad \nu = 1, 2, \dots, n$$

= 單葉範圍ヲ得ル。 γ ノ γ ハノ描寫ハ

$$R(z) > \log \left(\delta \sin \frac{\pi}{n} \right)$$

$$\left(k - \frac{1}{2}\right)\pi < I(z) < \left(k + \frac{1}{2}\right)\pi$$

= アル。 $k\pi$ ハコノ $|w| < 1$ ノ D_0 カラノ角距離トスル。
 故 = $\theta \geq \left(k + \frac{1}{2}\right)\pi$ ナ此ノ領域ハ無効 = ナル。

$$3. |w - a_\nu| < \delta \sin \frac{\pi}{n} \quad \nu = 1, 2, \dots, n$$

= 單葉、有限葉又ハ無限葉ノ單一連結ノ領域ヲ得ル。前二者ノ場合 γ ハノ描寫ハ

$$R(y) < \log\left(\sin \frac{\pi}{n}\right)$$

$$(k_2 - 1)\pi \leq I(z) \leq (k_1 + 1)\pi$$

= 落ちル。 $k_1\pi$ 及び $k_2\pi$ ハ夫々 (g) -discs $|w| \leq 1$ /
此ノ領域 = 関係アルモノ $\rightarrow D_0$ カラノ角距離ノ最大値ト最小
値ヲアル。

以上ヲ綜合シテ T ノ一ツノ代数範圍ノ角点ノ t_0 カラ
ノ最大角距離 (t_0 ハ D_0 ノ像) が $k_1\pi$ ナラバ此ノ範圍ハ
($k_1 + 1$) π ナラバ無効 = ナル。

T_m ヲ t_0 カラ $m\pi$ = アル T ノ部分トシテ T_m = 含
マレル $\sigma_1(m)$ ヲ對數範圍ヲ限ル項 (二ツノ角点ヲ結ガ長サ
 π ノ單位線分) ノ數 (之ガ限ル對數範圍ノ數 = 縦ツテ數ヘル。
以下同意) トスレバ

$$(m-1)\pi \leq t \leq m\pi \quad \text{ヲ}$$

$$\int_0^\theta \mu_1(t) dt \leq \pi \sigma_1(m)$$

T_m = 含マレ T_{m-2} ガ閉テナイ代数範圍 (二辺形モ含メ
テ) ヲ限ル T_m ノ項ノ數ヲ $\sigma_2(m)$ トスルト

$$(m-1)\pi \leq \theta \leq m\pi \quad \text{ヲ}$$

$$\int_0^\theta \mu_2(\theta, t) dt \leq \pi \sigma_2(m)$$

ヲアルカラ

定理 III. 級數
$$\sum_1^\infty \frac{1}{\sigma_1(m) + \sigma_2(m)}$$

が悉敬スレバ F ハ拋物的デアール。

二重週期函数 $p(z) = w$ ノ作ルリーマン面ハ此ノ條件ヲ満足スル。

§5. F が有限個ノ点

$$w = a_1, a_2, \dots, a_\nu$$

デノミ分岐スル場合ニハ、一次変換ト角谷サンノ部分的ナ Pseudo-regular function ヲ w -平面ニ用ヒテ a_ν ヲ §4 ノ基本点ニ移ス。 $F \rightarrow F'$ トナルトキ適當ナ Pseudo-regular 函数¹⁾ ノ選ビ方ニ對シテ F ト F' ノ型ハ同一ニナル。 F = 葉スル線狀複体 (Elfvig) ハ F' ノ線狀網ト一致スル故ニ此ノ場合ニモ複体ニ對シテ定理 III が云ハレル。

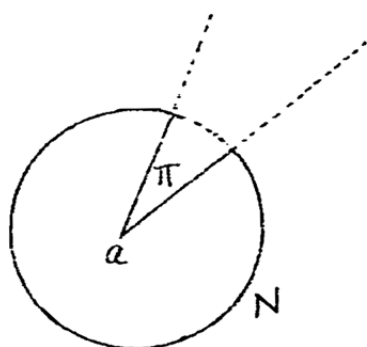
面分ノ個々ニ角谷サンノ方法ヲ適用スレバ、分岐点ノ座標ニツイテハ、モ少シ自由が興ヘラレルデアラウ。

註) 角谷氏本紙 49 号 173 Pseudo-regular function ノ應用。又、Z. Kobayashi, On the type of Riemann surface Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daigaku Sec. A. No. 42 (1935) ノ方法ト結果が同時ニ改良サレタコトニナル。

尚、Wittich が之レト同一ト思ヘル定理ヲ出シタコトガ E. Ulbrich, Flächenkon und Wachstumsordnung bei gebrochenen Funktionen, Jahresbericht d. D. M. V. Bd. 46, (1936) ニ述ベテアル。証明ハ出テ居ナイ。

36. Ahlfors の場合ヲ考へル²⁾。即ち $|w| < \infty$ = ハ代
 数分岐点ノミ起ル F ヲ取ル。 F 上有限 = w_0 ヲトリ w 。カラ
 面上ノ、 u - v ノ距離ノ最小ガ d 以内ナル点ノ集合ヲ $Q(d)$
 トスル。 $Q(d)$ ノ境界ノ中 w_0 ヲ F ノ開放的ナ部分ト分ツ
 ツノ曲線ヲ $\Gamma(d)$ トシ、 $\Gamma(d)$ ノ u - v ノ長サヲ $L(d)$ ト
 スル。

Ahlfors ノ定理ハ積分 $\int \frac{dt}{L(t)}$ ガ発散スレバ F ハ
 拋物的デアールト擴張サレル。



サテ $w = \infty$ 上ノ、 u - v ノ、正則又ハ代
 数分岐点ヲ考へル。十分大ナル円ノ
 外 = 此ノ $w = \infty$ ノ正則ナル近傍 N
 ガトレル。

今 u - v ノ、分岐点 $a \neq \infty$ ヲ頂点ト
 スル單葉角範 π ガ N ト共通部分ヲ持ツトスル。 N ノ周
 ノ長サヲ ε , a ト N ノ周トノ最小距離ヲ δ トスレバ $N \dot{+} \pi$
 上 a カラ $\delta + \varepsilon$ 以下ヲナイ距離 = アル点ノ集リハ $N \dot{+} \pi$
 内ヲ閉ナル。故 = a ノ、 w_0 カラノ最小距離ヲ d トスレバ
 $Q(p)$ ノ境界ハ $p > d + \delta + \varepsilon$ ガ $N \dot{+} \pi$ 内ヲ閉ナル。
 故 = π ハカナル p ガ $\Gamma(p) = \emptyset$ シテ無効デアル。

今代數分岐点 a ヲ頂点トスル ∞ 迄延ビルスベテノ單

註) L. Ahlfors, Zur Bestimmung des Typus einer
 Riemannschen Fläche. Comment. Math. Helv.,
 3 (1931)

其角範囲ニツイテ考ヘルト、十餘大ナル ρ が皆無効ニナルコトガアル、此ノトキ a ハ ρ が無効デアルト云ハフ。

ρ が有効ナル且ツ w_0 カラ i 以内ニアル代数分岐点ノ數ヲソノ次數ニ從ツテ數ヘテ $n(i, \rho)$ トスル。

$$L(\rho) \leq 2\pi \int_0^\rho u(x, \rho) dx$$

故ニ Ahlfors ノ定理ノ條件ハ積分

$$\int_0^\infty \frac{d\rho}{\int_0^\rho u(x, \rho) dx}$$

ノ発散ニナル。

サテ、スベテノ代数分岐点ニツイテ w_0 カラノ距離ト無効ニナル最小値 ρ ノ差ガ有界ナラバ、例へバ ρ ヨリ小サイトスレバ Ahlfors 氏³⁾ ノ球面上ガ得タ定理(角谷サンノ一昨年得タレタ)ガ同論文ニ於テ 2π ノ代リニ ρ ヲ置キ換ヘテ得ラレル。

定理 IV. F ノスベテノ代数分岐点ノ $\Gamma(\omega) = \sum n(i)$ 有界ニナルガ有界ナラバ

$$\sum_1^\infty \frac{i}{n(i)}$$

ノ発散ガ F ガ拋物的ナルタメノ十餘條件デアル。茲ニ $n(i)$ ハ次數ニ從ツテ數ヘタ w_0 カラ i 以内ニアル代数分岐点ノ

註) L. Ahlfors. Über eine Klasse von Riemannschen Flächen. Soc. Sci. Ferrica Comm.

Phy.-Math. IX, (1936)

数である。

例へば境界点を持たない F の代数分岐点の座標の集合が有界であれば、上の条件を満足する。例へば $|w| < K' = \text{入}$
ルならば

$$e = 2(\pi + 1) e'$$

トナル。